

# 目次

はじめに	2 1
出来事	2 1
ザリガニ	ある国会議員
見えない力	1
人を呼び込む力	2 1
夫に唾を吐く	2 2
神経質と問題の芽	3 2
不平	4 3
肯定的な人生と本当の価値	5 4
試練	6 5
悩める国アメリカ	1
力と鉄砲	2 1
未だに残る奴隷制の遺産	2 2
パールハーバー	3 2
責任	4 3
アメリカ人の心理	1
ものを失う怖さ	2 1
原子爆弾	2 2
独立記念日	3 2
天然資源	4 3
独り言と暗示癖	5 4
アメリカ文化を考える	1
ウエイター	2 1
先入観と主観の違い	2 2
マイノリティー	3 2
独立記念日の本当の意味	4 3
JFKジュニアの事故死	5 4
日本人とアメリカ	1
アメリカの名前ででています	1
アメリカンドリーム	1
夢の尺度	2 1
野茂英雄投手	2 2
航空会社への夢	3 2
日本人を考える	1
同胞意識	2 1
ポテンシャルと未熟者たち	2 2
ふと思う	1
本能	2 1
野ねずみと人間	2 2
人の器	3 2
苦勞	4 3
遺伝子	5 4
日米のものの見方の違い	1
汚点と経験	2 1
感想文テスト	2 2
報道の仕方の違い	3 2
騙すこと	4 3
マイノリティーアクト	5 4
独立心	6 5
消防士の募金運動(1)	7 6
消防士の募金運動(2)	8 7
あとがき	
著者紹介	

## はじめに

ものごとを考えるにあたり主観というものが、大きな手で思考回路の舵を握り、好き勝手に右に左に動き出す。どんなに大きな船も舵のむく方向に進む運命にあるから、時と場合によっては水に浮かぶものであっても山に登るはめになることもある。そんな風に、主観というものには大きな力があるように思う。

私にもこの主観というパワフルな舵取りシステムがある。その力任せに執筆という形をとって書かせて戴いたデビュー作が「わらじのカウボーイ」であった。CDを活用した出版であったお陰で、写真を目一杯くっつけて出させて頂いた。この本はオートバイを人生の友とする私の病的な一面と、外国人として生活するアメリカでの体験や比較を面白可笑しく綴ったものであった。

そして、「わらじ」が勢いを私に与えてくれた。「わらじ」を読んで下さった方々が励ましの言葉を沢山投げかけてくれた。「わらじ」出版の4カ月後に出させて頂いたのが、「荒野の麦わら帽子」である。オートバイから離れ、少し高いところから日米間の比較論をうつつてみた。また、アメリカに住んではじめて見えたアメリカ人の本音や悩みなども書き綴ってみた。この本ではCDを活かして動画もくっつけてみたのが画期的であった。

そんな勢いが、あたかも少量の水から始まり、上流・中流・下流と河を形成して大海

になだれ込む水の流れのように増幅されてきた。私の川幅は確実に広がりつつある。

昔から興味の焦点の一つであった「英語」という外国語の生の使い方や問題なども書くようになった。この「荒野の麦わら帽子

」は、皆さんからも戴いている勢いに任せて、いろいろな分野に広がりつつシリーズ化するのではという期待とともに発行ということになった。

作成にあたっては、YIEL電

子出版部の山内昭・多佳子御夫妻にお礼を申し上げたい。そして、年だからもう行けないといいながら在米中の私のところに7、8回も長旅に耐えながら来てくれた両親。三人の息子たち。大学時代からのオートバイ仲間の杉江利彦氏、加古洋二郎氏。アメリカ人の本音を解明するために公平に、しかしながら正直に話してくれたジョン・ガロブ氏



とスコット・シヨーブ氏にお礼を申し上げたい。

文章の中には、日米間の文化の違いや習慣の違いなどを取り扱っているものもあるが、これらは批判論の類ではなく比較論に毛のはえたようなものであることをご理解戴き、ある意味では冷めた目で見て戴いても面白いと思うている。

小池 清通

2000年9月30日

